### 教育研究評議会(令和7年度第2回)議事要旨

- 1. 日 時 令和7年5月16日(金)13:30~14:17
- 2. 場 所 オンライン会議
- 3. 出席者 (参集) 塩﨑議長 (学長)

(Webex) 加藤、太田、小谷、西村、ベントンの各評議員(理事) 出村、笠原、上久保、加藤、細川、井上、別所、松下、船津、種池、筒井の 各評議員

出席監事(Webex) 春本、柴田の両監事

陪席者 (参集) 蜂谷、有賀、山本の各課長

(Webex) 元平部長

東、守山、田上、伊賀、多田の各課長

# (配付資料一覧)

(配付資料一覧)	
資料1	教育研究評議会(令和7年度第1回)議事要旨(案)
資料2	令和7年度 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 運営体制
資料3-1	教員人事について (報告)
資料3-2	教員人事について (報告)
資料3-3	特任教員選考結果報告書
資料3-4	特任教員選考結果報告書
資料3-5	教員人事について (報告)
資料3-6	客員教員選考結果報告書
資料3-7	客員教員選考結果報告書
資料3-8	客員教員選考結果報告書
資料3-9	教員人事について (報告)
資料3-10	招へい教員・客員教授等選考結果報告書
資料3-11	招へい教員・客員教授等選考結果報告書
資料4	URA人事について (報告)
資料5	令和6年度 修士及び博士の標準修業年限内学位授与率
資料6	現員表(令和7年5月1日)
資料 7	令和6年度修了者の動向について

## 4. 議事

資料8

(前回議事要旨の確認)

資料1に基づき、令和7年度第1回の議事要旨(案)について、原案のとおり承認した。

#### (報告事項)

(1) 令和7年度運営体制等について 元平管理部長から、資料2に基づき、令和7年度運営体制等について、報告があった。

### (2) 教員人事について

議長から、資料 $3-1\sim1$ 1に基づき、教員人事(助教の退職1件、特任教授の配置換1件、特任権教授の採用1件、客員教授の称号付与2件、客員准教授の称号付与1件及び招へい教員の任命2件)について、報告があった。

## (主な意見は、次のとおり)

令和6年度内部監査結果

・特任教員を雇用する際、多くの大学では年齢制限を設けているが、奈良先端大の規程に は年齢について記載がない。今回、候補者に70歳の方がいらっしゃるが、大学として何 か考えがあって規程に年齢を記載していないのか、能力があり選考の趣旨に合致していれば年齢は考慮せず雇用しているのか教えていただきたい。

→規程により、特任教員については、雇用期間の始期における上限年齢を満70歳と定めているが、候補者の能力や大学のニーズに基づいて学長が特に認めた場合には上記の雇用契約期間を超えて採用することが可能であり、今回はこのケースに該当するものである。

## (3) URA人事について

議長から、資料4に基づき、URA人事(URAの採用1件)について、報告があった。

### (主な意見は、次のとおり)

- ・奈良先端大についてご存じの方にURAとして頑張っていただけるのは非常に嬉しい。実際にどのような業務を担当いただくのか。
  - →科研費や各種補助金の申請及びヒアリングについてサポートいただくことを想定している。加えて、知的財産や共同研究関連についても幅広く補助的な立場で関わっていただき、適性を見極めながら将来的に主担当となる業務を検討していく予定である。

### (4)修士及び博士の標準修業年限内学位授与率について

加藤理事から、資料5に基づき、修士及び博士の標準修業年限内学位授与率について、報告 があった。

#### (主な意見は、次のとおり)

- ・令和6年度の情報科学領域における標準修業年限内学位授与率が令和5年度の71%から 52%へ下がったことについて、何か分析や考察はされているか。
  - →毎年のばらつきの範囲でたまたま下がったのではないかと考える。
  - →情報科学領域は博士後期課程の学生を多く受け入れていることから、年による変動が 大きいのではと考えている。博士後期課程で多くの社会人学生を受け入れている現状 も踏まえ、慎重に分析したい。
- ・博士後期課程において標準修業年限の延長が承認された社会人学生が複数いると思う が、そのような学生はどこに分類されているのか。
  - →集計時点で学位を取得していなければ「在学」としてカウントしている。その後、 学位を取得した場合は「標準修業年限超過修了」に分類している。

## (5) 令和7年5月1日現在の在籍者数について

加藤理事から、資料6に基づき、令和7年5月1日現在の在籍者数について、報告があった。

#### (6) 令和6年度修了者の動向について

加藤理事から、資料7に基づき、令和6年度修了者の動向について、報告があった。

## (主な意見は、次のとおり)

- 前年に比べて推移はどのようになっているか。
- →ほぼ横ばいとなっている。

#### (7) 令和6年度内部監査結果について

筒井監査室長から、資料8に基づき、令和6年度内部監査結果について、報告があった。